

令和7年度 筑前町総合教育会議

1. 開催日時 令和7年12月18日(木) 15時～16時30分
2. 開催場所 筑前町役場本庁舎2階 庁議室
3. 出席者
 - ・町長 田頭 喜久己
 - ・教育長 宮崎 敏宏
 - ・教育長職務代理者 東野 正美
 - ・教育委員 小能見 深雪
 - ・教育委員 栗野 泰三
4. 参加者
 - ・教育課長 宮崎 宣匡
 - ・指導主事 月足 祐子
 - ・教育課学校教育係長 小澤 雅之
 - ・生涯学習課課長補佐 田中 晴美
 - ・総務課長 古川 秀志
 - ・総務課行政政策係長 石橋 昭和
 - ・総務課 石井 智捷
5. 会議に付した事件
 - ・不登校対策について
 - ・アフタースクールについて
6. 会議の経過
別紙のとおり
7. 傍聴人
0人
8. 議事録署名人の選任に関する事項
東野正美氏、小能見深雪氏を選任することを諮り、全員異議なくこれを承認した。

この議事録が正確であることを証します。

令和8年2月5日

議事録署名人 東野 正美

議事録署名人 小能見 深雪

石井	<p>本日、司会を務めさせていただきます石井です。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日お配りしている資料は、クリップ留めしている次第、それと名簿、筑前町総合教育会議設置要綱です。議題の資料については、紙資料はありませんので、スクリーンへの投影のみとなっております。</p> <p>それでは次第に沿いまして、挨拶を田頭町長、お願いします。</p>
田頭町長	<p>こういった会議が催されることを非常に楽しみにしておりますし、ぜひとも活かした会議にしたいと思っております。</p> <p>この会議で生まれたものがあります。近年では、子ども議会は、この会議の中から実施に至りました。</p> <p>それと、アフタースクールにしても、この中で起こそうということで、皆さんの思いを出し合っていて、実践につながっています。</p> <p>ですから、今日は、教育委員会部局と教育委員さん、そして首長との意見交換の場になろうかと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
石井	<p>次第 3、議事録署名人の選任です。</p> <p>要綱第 7 条に基づき、会議録はホームページにて公開いたします。</p> <p>議事録署名人につきましては、事前をお願いしておりますが、東野委員と小能見委員のお二人については、会議終了後、後日郵送にて会議録をお送りします。</p> <p>確認の上、署名をお願いいたします。</p> <p>それでは次第の 4、議題の方に移りたいと思います。</p> <p>ここからの司会は田頭町長となります。</p>
田頭町長	<p>それでは私の方で進行を務めさせていただきます。</p> <p>まず、議題の次第に沿って進めたいと思いますが、これ以外にも何かありましたら、ぜひこの機会に意見を交換したいと考えます。</p> <p>まず一点は、昨年度の議題でもありましたが、不登校対策です。</p> <p>これが全国的な傾向でもあるということは承知しておりますが、本町の状況、あるいは本町への対策、それと今後どういった取り組みがいいのだろうか、そういった提案までありましたらですね、ぜひ紹介していただいて、議論を進めていきたいと思っております。</p> <p>取組の状況等について、説明をお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>

宮崎教育長	<p>次第の 1 番と 2 番、両方セットでプレゼンを作っていますので、まとめて説明させていただきます。</p>
月足指導主事	<p>本日は、教育政策の中から、主に二点説明をいたします。 一つは、中学校アフタースクールについて、 二つは、教育支援センターネットワークの取り組みについてです。</p> <p>初めに、中学校アフタースクールについて説明をいたします。</p> <p>こちらは、アフタースクールの運営体制です。 三輪中、夜須中ともに週 2 回、夜 7 時から 8 時 50 分まで、熱心な学びの場として展開しております。</p> <p>さらに、今年度から英会話コースが新設されています。 ALT の直接会話によるオールイングリッシュの授業において、子どもたちは楽しみながら英語に触れています。 それでは、本事業の成果についてご報告します。</p> <p>成果 1 点目は、加入者数の推移です。 ご覧のとおり、コロナウイルス感染拡大期を経て、加入者数は順調に推移しており、今年度は過去最多となる 202 名を達成しました。</p> <p>成果 2 点目です。 加入者の満足度です。 アンケートによると、78%の生徒が、「非常に満足」「やや満足」と回答しております。</p> <p>その理由として、「授業がよく分かるようになった」「勉強の仕方が分かった」など、子どもの主体的な学びにつながる声が数多く寄せられていることが特徴です。</p> <p>こうした背景には、独自の教育システムである三つの戦略があります。 まず、個別対応です。基礎基本の定着を目指した基礎クラスと、予習を中心とした活用クラスを設置し、子どもの習熟度に応じたクラス編成となっています。</p> <p>また、特別支援学級に在籍する生徒には、個別のプリントを準備するな</p>

ど、学校と連携をし、頑張りたい子どもに寄り添う補完的なサポートを担っています。

また、英検受験料全額補助という町の制度と直結した対策講座を開講することで、子どもの成功体験を後押ししています。

以上が成果です。

課題は3件あります。

1点目は、人材確保です。

現在、講師の確保や調整業務が、高松代表に集中しており、持続可能性に不安があります。今後は、地域全体で人材を確保できる仕組みづくりが急がれます。

2点目は、学習環境です。

現在、支援スタッフを増員し、ルールを守れない生徒には、推進員と教育課が連携して、粘り強く指導を行っています。今後は、生徒のやる気をいかに引き出すか、ソフト面でのアプローチも求められています。

3点目は、コースの重複受講についてです。

現在のシステムでは、数英コースと英会話コースのどちらか一方しか選択できません。生徒のニーズに応えるには、ご覧の経費がかかる計算となり、令和8年度予算に計上させていただいたところです。

アフタースクールが、筑前町の子どもの学びと可能性を広げる確かなきっかけとなるよう、更なる充実に努めてまいります。

次に、教育支援センターネットワークの取り組みについてです。

令和7年度は、町の教育支援センター彩と、二つの中学校、三つの小学校に校内教育支援センターを設置し、教室に入れない子どもの学びの補助と、居場所づくりを連携して行ってまいりました。

令和7年10月時点の、校内教育支援センターの利用状況です。

通級人数は、三輪小学校11人、東小田小学校7人、中牟田小学校5人、三輪中学校19人、夜須中学校23人、合計65人です。

このうち、10月時点で、長期欠席、欠席30日を超えずに、校内教育

	<p>支援センターへ登校している子どもの人数は次のとおりです。</p> <p>三輪小学校 5 人、東小田小学校 5 人、中牟田小学校 3 人、三輪中学校 9 人、夜須中学校 7 人、合計 29 人です。</p> <p>現在、長期欠席にならずに登校している子ども 29 人の中に、令和 6 年度は長期欠席だった子どももいます。</p> <p>この子どもたちの、令和 6 年度の欠席日数と、令和 7 年 10 月時点での欠席日数を比較すると、欠席日数を減らしていることが分かります。令和 6 年度 1 年間の欠席日数の平均は 72.1 日、令和 7 年度 10 月時点での欠席日数の平均は 18.9 日です。</p> <p>このことは、校内教育支援センターの運営によって、教室に入れない子どもにとって学ぶことができる場所、過ごすことができる場所となり、学びの保障と居場所づくりにおいて成果であると捉えています。</p> <p>今後の課題についてです。</p> <p>様々な取り組みを行っていますが、不登校の児童生徒すべての学びの保障には至っていません。誰一人取り残されない学びの保障に向けて、以下の課題の解決に取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>一つは、子どもへの関わり方や、教職員・保護者との連携など、マネージャーのマネジメント力の向上。</p> <p>二つは、効果的な登校支援を実現する、不登校担当教員の運営スキルの向上、および教育委員会との連携。</p> <p>三つは、学校や学級が、子どもが安心して過ごせる心理的安全性を確保できること。</p> <p>四つは、全ての子どもが、「分かった」「できた」と実感できる授業改善です。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
田頭町長	<p>ありがとうございました。</p> <p>様々に成果が出ていると、なおかつ課題も生まれているということだろ</p>

	<p>うと思います。</p> <p>特に、不登校の関係では、4分の1に減ったということですね。18.9日、そこまでこの単年度で成果が出たということですね。</p> <p>それと、アフタースクールの方でも様々成果は出ている。200名の参加者というのは画期的でしょう。</p> <p>こういったアフタースクールの制度の導入というのは、近隣の市町村、中学校等ではやっていることでしょうか。私は那珂川市しか知らないですが、どのような状況でしょうか。他自治体でもやっているのでしょうか。</p>
宮崎教育長	<p>芦屋町で、夏休みに、2.3回やっているという話は聞きました。</p> <p>ただ、このように町営の塾は全くないとのこと。</p>
田頭町長	<p>その点、うちの取り組みというのは、間違いなく取り組んでよかったと言えますね。経費の面は別としても。</p> <p>ただ、200人規模になってくると、昼間の子どもたちの学習環境とよく似てくるのではないかなど。生活指導に追われるようになれば、先生方が本来の目的である勉強に注力できなくなる、そういった心配もあると思いますが、そのあたりはどうでしょうか。</p>
月足指導主事	<p>200人という人数で、様々な子どもが集まってきている実態はあります。生徒指導上必要な場面もありますが、現在のところは推進員の先生と教育課が連携して、特に後藤さんが、毎週のように子どもたちに直接指導を行っている実態がありますので、改善の必要があると思っています。</p>
田頭町長	<p>ただ、手挙げ方式でしょう。本人申請主義で行きたくない人は来ないわけでしょう。そういった中で200人規模ということですね。</p> <p>以前、教育長から聞いた話ですが、うちの子どもたちは家庭学習の時間が他の学校と比較して非常に不足していると、アフタースクールまで含めてもなお不足しているという理解でよろしいでしょうか。</p> <p>狙いとしては、もちろん学力向上が大きいわけで、そういった面で、学力向上に向けて周りの自治体がやっていないようなことをやったら多少突出していてもいいように思うが、それが即、学力向上と直結していないという点については、家庭学習の時間がこれまで非常に不足していた、そして、現在もなお不足している、そういう捉え方でいいのか確認させていただきたいと思います。</p> <p>比較することについては、良い面、悪い面はあると思いますが、一つの目安になるという点では、必要なことだと考えています。</p>
月足指導主事	<p>令和7年度の全国学力調査において、全国平均と比較しますと、やはり厳しい実態があります。</p>

	<p>ただ、今年の中学3年生の英検受験につきましてはすでに受験が終わっておりまして、集計をしたところ、全体の5割取得を目指してはおりますけれども、3割以上の中学3年生が英検3級を取得した状態で卒業していくという状況になっております。</p>
田頭町長	<p>それは、他と比較すると高い取得率ということですか。</p>
宮崎教育長	<p>全員受験をしているところはうちぐらいなので他と比較しようがないです。平均的な数字だろうと思います。</p>
田頭町長	<p>とすれば、うちあたりはなかなか塾環境が他自治体よりも恵まれないところがあるから、こういった視点で動機付けしていただいて、受験するような気持ちに子どもたちがなってくれているというのは、一つの前進ではあるわけですね。</p>
宮崎教育長	<p>保護者はとても喜んでいます。</p>
田頭町長	<p>英検受験を通して英語が好きになったという子どもたちの姿は見受けられるところではありますよね。</p> <p>また、アフタースクールについてですけども、わが町の周辺を見ますと、筑紫野市や朝倉市など、それぞれに私塾があるわけですね。うちの町にも塾はありますが少ない。やはり家庭の経済的な事情があると、塾までの通塾にかかる費用や時間というのは子どもたちにとって非常に大きな問題だと思っています。そういった点では、町としては、塾環境や通学環境の面で一定の不利な部分があると言えるのではないかと思います。</p> <p>そこで、こういった仕組みをつくることによって、通塾にかかる時間が短縮されて、部活動が終わればすぐにそのまま学習に取り組める、そういった環境については非常に改善されたと捉えていいのでしょうか。</p>
月足指導主事	<p>はい。</p>
田頭町長	<p>そして、課題として書かれておりますけれども、アフタースクールについては、高松先生を中心にこれまで取り組んできたという経緯があるかと思えます。ただ、これを今後組織として継続させていくためには、高松先生に引き続き十分にご活躍いただきながらも、さらに将来性や継続性のある仕組み、システムを構築していく必要があるのではないかと、そのように考えておりますがその理解でよろしいでしょうか。</p> <p>その上で、具体的な方策としては、どのようなものが考えられるのかお伺いしたいと思います。</p> <p>例えば、一つ聞いた話として、私立高校の先生方がアルバイトを兼ねて関わることで、こうした取り組みが成り立っている事例があるという話もあり、なるほどと思ったところです。もし、そういった方向性に力を入れる</p>

	<p>べきだとするならば、それに見合った形で予算付けをしていくことも検討すべきではないかと思っております。</p> <p>ぜひ、こうした点も含めてさらなる改善の方策があれば、ここで議論させていただきたいと思います。</p> <p>教育委員の皆さんは、この点についてどのようにお考えなのかお伺いしたいと思います。</p> <p>アフタースクールについては、やはり子どもたちが何よりも評価のバロメーターだと思っております。参加する子どもたちが増えているということ自体が、周りがどうこう言う以前に一定の成果が出ている、子どもたちにとって望まれた取り組みだったと受け止めているところです。</p> <p>また、英語の講座につきましては、時間帯の関係で重複して受講できない、同時に受けられないという課題があると聞いておりますが、それを次年度は改善し、両方受講できるようにしたいという考え方でよろしいでしょうか。</p> <p>その場合、一定の経費は必要になると思いますけれども、実現すれば延べの受講人数としてはさらに増えていくこととなりますよね。</p>
月足指導主事	<p>経費は必要ですが、そのような希望はあります。</p> <p>延べ人数も増えます。</p>
東野委員	<p>周りの方からもいくつか意見を聞くことがありますが、やはり「町がこんなことをしているのはすごいね」という声はありますし、そういった話は私の耳にも入ってきております。</p> <p>それから、実際に中学生の子どもが進路に悩んだときに、偶然ですが、担当していた数学の先生が自分の行きたい私立高校の先生だったというケースがあったと聞いています。</p> <p>一つの事例ではありますが、高校の先生がスタッフとして実際に指導に入っていて、しかも現場で直接いろいろ相談ができる、これはなかなかないことなのではないか、そんなに多くあることなのかなと思って、それは良かったね、いろいろ聞けるね、という話をしたことがあります。</p>
田頭町長	<p>今後、ボランティアという形になると、どうしてもリタイアされた方をお願いするケースが多くなると思いますが、現役の先生に相談ができて、しかも実際に指導してもらえるというのはものすごく心強いことだと思っています。</p> <p>特に、高校の先生であれば受験というものもかなり念頭にあるでしょうし、今、私学は生徒募集の競争も激しい状況だと思いますので、「ぜひ我</p>

	<p>が校に」という思いも当然お持ちだと思います。そういった活力をうまく活かして、このアフタースクールをさらに成長させていくという手立てもあるのではないかと思います。</p> <p>もちろん、地元の公立高校も真剣に取り組んでおられると思いますし、正直言って公立高校の先生方も非常に刺激を受けられた部分があるのではないかと考えています。高松先生をはじめとする関係の先生方も、この取り組みの広がりや効果についてはかなり意識されていたのではないかと思います。結果として進路の選択肢が多方面に広がっているのであれば、それはそれで子どもたちの希望につながることで良いことなのだろうとも考えています。</p> <p>その上で、ボランティアとしての思いで関わっていただきたいという気持ちと、一方で、アルバイトとして一定の報酬を得ながら関わりたい、そういった思いを持つ方々をもう少し積極的にスカウトしていく必要もあるのではないかと思います。</p> <p>そうすると、私立高校の先生方にしても、ある程度妥当な謝金、きちんとした対価を期待される部分もあるのではないのでしょうか。</p> <p>その点については、決して高額である必要はないにしても、一定の金額があれば、むしろ喜んで関わっていただけるのではないかと、そういった声も聞いております。</p> <p>ちなみに、今はどの程度の額を支払っているのでしょうか。</p>
田中課長補佐	<p>ちなみに、現在は1時間あたり4,500円、1日2時間お願いしておりますので1日9,000円です。</p>
田頭町長	<p>1時間4,500円は、我々行政職からすると破格の水準ですが、先生方で4,500円出て2時間教えて9,000円はいかがですか。</p>
東野委員	<p>すごく良いと私は思います。</p>
田頭町長	<p>それであれば、相手にとっても決して悪い話ではないと思いますが、アルバイトという形での参加は可能なのでしょうか。私立高校の先生はどうか、公立高校の先生はどうかをお聞きしたいと思います。(どちらも問題ない)</p> <p>公立でも可能な場合もありますし、実際にそういった方がおられるかもしれませんよね。高松先生は、校長先生だったこともあると思いますし、これまではそういった人脈を生かして紹介いただいている部分があるのだと思います。</p> <p>ただ、継続性を考えると、やはり個人のつながりだけでなく、事務局なり組織として動いていく必要があるのではないかと考えています。人事管理や</p>

相談業務については、役場の職員もすでに手一杯で対応していると思いますが、例えば、地域おこし協力隊などの制度を活用することも大いに検討できるのではないかと考えています。

一つの方向性としては、中学校の先生ではなく、やはり高校の先生に関わっていただくことがより効果的ではないかと考えています。日頃から受験に向き合い、子どもたちと接している高校の先生方に現場の実態や将来の見通しを直接伝えてもらう、それは非常に意義のあることだと思います。

中学校の先生方も昼間は本当に一生懸命取り組んでいただいているのですが、高校の実態や現場感覚という点では、やはり高校の先生の方がより具体的な話ができる部分もあるのではないかと考えています。このアフタースクールの趣旨として、高校受験を一つの目安にしていることも事実ですので、そういった意味でも、今後は、より高校の先生方へアプローチしていく、人脈も含めて進めていくことが重要ではないかと考えています。

筑紫地区には、筑紫丘高校や筑紫台高校などもありますし、筑紫台高校については元教育長が関係しているのも、そういったご縁も活かせるのではないかと考えています。

うちの町は都市圏に近く、筑紫地区や朝倉地区など複数の高校圏域と接していますので、それぞれに声をかけて、先生方に協力をお願いしていくことも可能ではないでしょうか。こうした方向性で取り組むのであれば、必要に応じて、予算づけについても前向きに考えていきたいと考えております。

そして、学校で行うので子どもたちはわざわざ通塾の経費をかける必要がない。通常の通学であれば、街灯をつけろとか歩道を整備してくれなど、様々な要求が出てきますけれども、町外塾に通う子どもたちからの通学環境の改善については、ほとんど話が出てこないでしょう。そこまで覚悟のうえで通っているという認識でよろしいかと思います。

ただ、そこまでできない子どもたちが、町内にも多くいるということも事実です。その意味では、経費もかからずに学校の形を工夫すれば、学習環境の改善は可能だと思います。例えば、クーラーの設置などもその一つです。子どもたちのために環境を整えることは重要であり、無料で提供できる学習環境は、やはり子どもたちのためにあるべきだと思います。

一方で、こうした仕組みを運営するには、先生方をサポートする事務局的な職員も必要です。例えば、通塾者数や出欠の確認、連絡調整など

	<p>一つ一つ手作業で管理する必要があるためです。</p> <p>さらに、月謝については毎月徴収しているのでしょうか。その管理も含めて、事務局的なサポートは欠かせない、という点が課題として挙げられると思います。</p>
田中課長補佐	<p>前期と後期に分けて徴収しています。退会した場合など返還が発生することもあります。</p>
田頭町長	<p>なるほど、わかりました。</p> <p>では、そういった方向で何かあったらぜひ我々も手伝わせてください。教育委員会ばかりでは大変ですから。</p> <p>それと、そういった方々のつてを活かして、例えば、今年は学校に三校ほど行こうなど、実行に移すことも大事だと思いますので、来年度あたりには、早速そのような取り組みを実行してみようかなとも思いますね。その点については、我々としても行っても構いません。</p> <p>それから、もう一つの課題として、不登校対策が非常に重要だという認識があります。</p> <p>全国的には、不登校の割合は1割以上、おおむね13%程度と聞いていますが、わが町ではどの程度かはまだ把握できていません。現時点では、直接子どもたちに関係する話ではありませんが、国立青少年自然の家において、公明党の国会議員が中心となって、不登校や引きこもり対策に取り組む動きがあります。私も東京に行って呼ばれた際には、申告書を用いた取組について説明を受けました。</p> <p>大人の場合は「引きこもり」という表現になりますが、将来的には不登校の子どもたちの支援にもつなげたいという方向性だそうです。当初は、成人者の引きこもり対策から始める予定で、全国の青少年支援の拠点として事務所も設置してプロフェッショナルが対応する計画だそうです。国の考え方としては、働き盛りの人材を眠らせないようにすること、社会的に活用できる立場に変えていくことを目的としており、社会問題として取り組む方向性となっています。</p> <p>来年度からは、全国の青少年自然の家を拠点にしようとしているようです。わが町でも、少年自然の家の一角を借りて、同施設の機構と引きこもり関係の機構が設備や環境を活用して対応を進める計画です。国の本省同士が連携して、利用促進を進める方針が決まっており、具体的な取</p>

	<p>り組みも動き出す見込みです。町にも一度来られました。</p> <p>ただし、学校現場での不登校対応については、今年も来年も継続してありますからね。</p>
宮崎教育長	<p>この間、夜須高原で会合を行った際の話ですが、夜須高原の責任者から、先ほど町長がおっしゃった事業とは別に、不登校の子どもたちを迎えに来て自然の家で活動に参加させることが可能であるという提案をいただきました。</p> <p>それを受けて「では、その方向で実施してみようか」という話になっています。</p>
田頭町長	<p>これは、まさに地の利を生かした取り組みだと思います。</p> <p>わが町にある施設を活用することで、子どもたちが全く家にこもっているよりも、外に出て人と触れ合う機会を持つということは極めて重要だと思います。</p> <p>また、平和記念館を活用するという案もあります。知覧で聞いた話ですが、見学されたやんちゃそうな若い人達も館内見学を通じて神妙な顔つきで退館するということがあったそうです。そういった役場の事務とは異なる雰囲気での記念館で、少しボランティアをしながら人と触れ合い、同世代がどのようなことをしてきたかを学ぶことも大刀洗平和記念館活用としてできるのではと感じたところです。</p> <p>我々も映像を見たりすると考えさせられるではないですか。映像を見たり、話を聞いたり、手紙を読んだりするだけでも、中学生・高校生の子どもたちにとっては同年代の行動や考えを知る契機になり、元気づけになることもあるそうです。</p> <p>こうした手立ては、わが町ならではの施設、例えば少年自然の家や記念館を活用することでより密接な交流が可能になると思います。</p> <p>もし可能であれば、記念館の受け入れ体制についても協議し、一定期間ボランティアや活動の機会を提供することを検討したいです。最近、中学生もいろいろな式典でのボランティアとして活動してくれています。その延長線上として考えれば、あまり手間暇がかかるようなことでなければ、受け入れ側の業務にも支障なく運営できると思います。</p> <p>少年自然の家との連携については、所長が非常に前向きであることから、この取り組みを進めていきたいと考えています。具体的な実施については、教育長と私の仕事として進めていくという認識でよろしいと思います。</p>

宮崎教育長	わかりました。
田頭町長	ちなみに、アフタースクールの雰囲気は、昼間のクラスの雰囲気と違いますか。私も1回見に行ったけど最近行けてないので。やはり昼間と比べると真剣味が違いますか。
田中課長補佐	<p>昼間はなかなか見る機会がないですが、夜のアフタースクールを受講している子どもたちは真剣に集中して取り組んでいると思います。ただ、やはり時々スマホを見ている子どもがいます。</p> <p>子どもたちの出欠確認が終わった後には、大学生が教室に行って指導者と一緒に説明しています。</p>
田頭町長	大学生は全くのボランティアですか。
田中課長補佐	いいえ、報酬があります。
田頭町長	<p>やはりお金を出すということは相手にも責任を持ってもらうことで大事なことですね。</p> <p>大学生が直接教えるわけではなく先生のサポートでしょうか。</p>
田中課長補佐	専門の先生がいて、そのサポートを大学生が行っています。
田頭町長	<p>ということは、教えてくださる先生は皆さん資格を持った先生ということでしょうか。そうでないと教えられないのでしょうか。</p> <p>大学生たちは、出欠の確認など事務手続きをしてくれているのでしょうか。</p>
田中課長補佐	出欠の確認や、欠席連絡がない子どもへの連絡などを行っています。その事務作業が終われば、大学生の手が空くため教室に入って先生のサポートをしてくれています。
田頭町長	<p>教育現場においても、効率的にできるところは効率的に進める必要があります。もちろん教育はそれだけではありませんが、例えば出欠管理や連絡事項などの事務は効率的に処理できるようにするべきだと考えています。来年度から、町役場もそういった方面に力を入れる予定です。</p> <p>先日、文科省のアドバイザーが来町され、DX(デジタルトランスフォーメーション)を活用した教育環境の一覧表を示されました。その中で、「お宅の町はこの程度の進捗です」と教えていただきました。</p> <p>DXを活用することで、事務作業を簡素化できる部分が多く、すでに進んでいる自治体もあります。例えば、出欠管理や連絡事項の整理など、可能な限りデジタル化や効率化を進めることが重要です。</p> <p>文科省のアドバイザーも、夜のアフタースクールは知らなかったので昼間の学校での事務作業の効率化について指摘しており、こうした手法を活用することで、職員の負担も軽減できます。学校事務の範囲や担当を</p>

	<p>明確にした一覧表もあり、「どの作業をどこが担当するか」を整理しており、どこまでは DX を活用できるなどの説明を受けました。これを活用することで、学校の先生方も負担が軽くなり、効率的に運営できるということです。このような取り組みを通じて、限られた職員でも効率よく教育運営ができるよう努力していきたいと考えています。</p> <p>そういった取り組みをいくつか進めていく必要があると思いますし、まずは指導者の確保、継続性のある核となる体制をつくっていくことが重要だと考えています。</p> <p>その体制がある程度整った上で、現在、月謝を徴収していますが、この点について、保護者から何か意見や要望が出ているのか、その状況をお伺いしたいと思います。金額については、全く無料にするよりも、ある程度の負担があった方が良くという意見もあると聞いておりますが、そのような理解でよろしいでしょうか。</p>
宮崎教育長	<p>先ほどのボランティアの話とも同じで、全くお金を払わない形にしてしまうと、どうしてもいい加減になってしまい、行かないなら行かなくていいになってしまう部分があると思います。</p> <p>やはり、金額の多寡は別としても、一定の対価はきちんといただく必要があると考えています。</p>
田頭町長	<p>塾としての料金設定も、一般的な民間塾と比べるとおよそ 10 分の 1 程度ですからね。</p>
宮崎教育長	<p>そうですね。</p>
田頭町長	<p>実際の子どもたちの状況を見ますと、例えば、アフタースクールだけでは不足だと感じて、アフタースクールに通いながら空いている曜日には別の塾にも通っている子どももいるという話も聞いております。</p> <p>うちの町の特徴として、経済的に見れば、決してそんなに貧しい町ではない、正直そう思っています。ただ一方で、教育に対する感覚や価値観については、昔ながらの農村的な考え方が残っていて「勉強よりも、まずは働ければいい」という意識がやや強かったのではないかと感じています。</p> <p>そのため、他の町、特に都市部と比べると、家庭における学習環境や教育に対する意識が少し低めなのではないか、そう感じる部分もあります。</p>
東野委員	<p>本来は、昼間しっかり授業を聞いてやってくれればいいのですが、そういうわけにもいかないのが現実です。学校教育はしっかりやっています。</p>
田頭町長	<p>本来はまずは昼間の学校教育をしっかりやってもらう、それが基本で</p>

	<p>あり先生方がしっかりやってくれていることは、十分に認めています。</p> <p>それでは、このアフタースクールの対象ですが、現在参加している約200人という数字は、中学2年生・3年生だけではなく、中学生全体を含めた人数という理解でよろしいでしょうか。学年でみるとどこが多いのでしょうか。</p>
宮崎教育長	<p>1.2年生です。</p> <p>3年生になると、別の塾に行くことが多いですね。</p>
田頭町長	<p>それと、指導内容の統一性についてですが、現在来ていただいているのは、いずれも資格を持った高校の先生方で、一定の基準や考え方を共有した上で指導していただいているという理解でよろしいでしょうか。特定の先生の個人的な考え方が強く出て、極端に偏った指導になったり、自分の好きな分野だけを押しつけないというようなことはないという認識でよろしいのか確認したいと思います。</p> <p>アフタースクールのテキストは、先生によって異なるのでしょうか。</p>
月足指導主事	<p>コースごとにテキストを指定していますので、先生によってテキストが異なるということはありません。</p>
田頭町長	<p>やはり、人は誰でも見られていると緊張もしますし、その分、成長したり成果が出たりするものだと思います。そういう意味では、折に触れて我々も現場を見ていくことが大事だと思っています。私自身、これまで十分に見に行けていなかった点は申し訳なく思っていますが、今後は、例えば廊下の方からでも、様子を見ていくことは必要だと感じています。それは、教育委員も議会も同様ですが。</p> <p>議会が来るから説明して、、、などではなく、自然に見てもらい、関心を持って見守る、そういうスタンスでいいのではないかと思います。むしろ、自然に見ている、関心を持っている、その姿勢が伝わるだけでも、現場にとっては十分意味があるのではないかと感じています。</p>
宮崎教育長	<p>そうですね。</p>
田頭町長	<p>不登校については、昨年度と比較すると一定の成果は出てきていると感じています。そのため、まずはこの延長線上で引き続き取り組んでいくという考え方でよろしいのではないかと思います。</p> <p>これ以上の新たな取り組みについては、現実的にはなかなか難しい部分もありますが、少年自然の家との連携をやっていこうかなど、よそにはできない一つの有効な方法だと考えています。少年自然の家も、職員の多くが教員経験のある方々であり人材面では非常に恵まれている施設だ</p>

	<p>と思います。</p> <p>来年度は交流事業として、向こうの方から職員が町へ来て、学び合う取り組みも進めていく予定です。せっかく良い施設と人材があるわけですから、少年自然の家にいる人材をわが町の取り組みにぜひ活かしていきたいと考えています。</p> <p>また、相手方にも平和記念館の紹介をしてもらっているなど、お互いに地の利を生かしながら連携して取り組んでいこうという方向で話を進めています。</p> <p>不登校対策について、現在取り組んでいるものに加えてほかにも何か不登校対策として、「こんなことをやったらどうか」という提案があれば、できる、できないは別として、ぜひ紹介して教えていただきたいと思います。</p>
月足指導主事	<p>支援学級に在籍している子どもたちの不登校率がかなり高い状況にあるということで、支援学級のあり方や運営の在り方については非常に悩ましい課題であると考えています。</p>
田頭町長	<p>支援学級の子どもたちが不登校に結びつきやすい。</p> <p>それは学校の問題として大いにわかるのですが、それはアフタースクールにも影響しているということでしょうか？アフタースクールには支援学級の子どもたちはあまり来ないのでしょうか。</p>
月足指導主事	<p>参加している子どももいます。</p>
田頭町長	<p>アフタースクールに関係なく、支援を必要とする子どもたちに関しては、不登校になる傾向があることがわかっています。そのため、不登校を防ぐためには、支援学級などで支援を必要とする子どもたちをしっかりとフォローしていくことが必要だということですね。そうすると、先ほどの一番の取り組み(アフタースクール)と、二番目の取り組み(支援学級のフォロー)がより密接に連携していくことが重要だということですね。</p> <p>また、わが町の支援学級における指導体制や人的配置については比較的進んでいる方ではないかと感じていますが、現状としては必ずしも十分とは言えないのか確認したいと思います。</p>
宮崎教育長	<p>難しいですね。</p>
田頭町長	<p>どこでも、義務的に支援学級を作らないといけないという基準があるのでしょうか。</p>
宮崎教育長	<p>もちろんです。基準は全国一律で定められています。</p>
田頭町長	<p>例えば学年に10人以上いたら作らなければならないとかでしょうか。</p>
宮崎教育長	<p>8人までが1学級ですね。</p>

東野委員	種別が知的とか情緒とか肢体とか病弱とかあります。
田頭町長	その種別ごとに担任の先生が1人ずついるということですね。 そうなるのかなりの数の先生が必要ですね。
宮崎教育長	三輪小学校が1番多くて、10学級ほどあります。
東野委員	そこだけでもプラスで担任の先生が必要になってきます。
田頭町長	児童の数は変わらなくても、支援を必要とする児童がいれば、それだけ学級が増えていくということですね。
宮崎教育長	例えば、肢体不自由の児童が2人いれば1学級ですので、そこで担任が1人就くことになります。
田頭町長	担任がつくまでもない支援を必要とする子がいたら、他の子たちと一緒にやることになり、そのクラスの担任の負担も増えますね。
宮崎教育長	支援員をつけて担任のフォローをしています。そのような対応を町では行っています。1学級が1.2人なら目が行き届きますけど、8人いると中々担任だけでは難しいですね。 特別支援学級が8人で1クラス、2人でも1クラス、1人でも1クラスです。それぞれが特性を持っていますから難しいですね。
田頭町長	それが近年の学校環境でしょうかね。昔はそこまで聞かなかったような気がします。
宮崎教育長	特別支援に対する保護者の理解が以前より深まったということが一つ挙げられると思います。以前は表に出さない保護者もいたと思います。
田頭町長	サポートしてくれる人を雇わなければならないがそこまで行き届いていないという現状があるわけですね。1.2人なら何とかなるが、3.4人となると大変だということですね。 実態として、町で起きているということでしょうか。
宮崎教育長	それはどこも同じだと思います。
東野委員	先ほど、指導主事の方から、支援学級の子どもたちの不登校率が高いということで、さまざまな要因を考えています。 実際、学校を訪問させていただくと、支援学級の担任の先生方はどこも子どもたち一人一人を大切に一生懸命指導されています。支援学級の子どもたちは、おおむね5割が支援学級で学び、残り5割は通常学級で学ぶ形ですが、どちらの場合においても、教員同士が連携しながら指導にあたっています。 それにも関わらず、支援学級の子どもたちの不登校率が高い背景には、保護者のせいにするつもりはないですが、保護者の価値観や考え方も一つの要因として影響しているのではないかと思います。

	<p>具体的には、「子どもがとにかく学校に行き、問題を起こさなければよい」という考え方で、支援学級の方に預けられて、その子どもが本来持つ力が十分に伸びない。また、情緒が強い ADHD や ASD など特性のある子どもが友達とトラブルを起こした際に、それを家に帰って保護者に色々な話をすると強く注意されるなど、こういった悪循環が不登校の要因になっているのかなと思うことがあります。</p> <p>担任の先生方は保護者と連携しながら指導していますが、不登校の要因については、家庭環境や保護者の考え方も含めて今後さらに検討していきたいですね。</p>
田頭町長	<p>家庭環境、家庭ごとの子育ての考え方はそれぞれ違うでしょうから、そういう中で、「とりあえず学校だけ行っとけばいい」というくらいの感覚「まあ、休みたければ休めばいいんじゃないか」というような感覚の人もかなりいるでしょうね。</p>
東野委員	<p>特に、今はもう学校は行かなくてもいいというような社会的な風潮があるからですね。教育機会均等法上、それぞれどこかで学ばばいい。本当にどこかで学ばばいいのですが、どこでも学ばずに子どもを家に居させるというところもあるのは大きな課題だと思う。外の世界と全く繋がっていない子がいますよね。</p>
小能見委員	<p>以前から思っていたのですが、「不登校」と「登校拒否」は別にできないのでしょうか。</p> <p>ずっと「不登校」でこれまでずっと課題として出てきていると思うのですが、不登校と登校拒否は「行きたいけど学校に行けない」という場合と、自分が「絶対に行きたくない」と言っている場合とでパターンがあると思っています。おそらく対策も変わってくると思うのですが、不登校と登校拒否を分けられない理由って何かあるのでしょうか。以前は「登校拒否」という言い方をしていましたけど、今は使わないですね。</p>
宮崎教育長	<p>行きたくても行けない子が増えたからではないでしょうか。</p> <p>本人が拒否しているわけではないが、行けないというパターンなど。</p>
小能見委員	<p>いつもそこがどうなのかなと思っています。ただ、子どもが学校に行くか行かないかは、確かに保護者の意識がすごく大きいと思います。</p>
田頭町長	<p>まだ具体的な制度設計は見えていませんが、不登校や引きこもりは本人だけの問題ではないことが多く、今度夜須高原青少年自然の家でやるというものは、そこが宿泊施設であることもあり、本人だけでなく保護者も一緒にということも考えているようです。周りの環境が大事ですから、保護者も一緒に勉強したり訓練したりというものが必要になってくるかも</p>

しれないですね。

子どもの不登校というのも、親にとってはやっぱり悩みですし、大きな心配事ですよ。1.2日間くらいそういった施設で勉強しに行ってみようか、という意識を持ってもらえる人はある程度出てくるかもしれないですよ。

この間、認知症の人権に関する講演を見ましたが、やはり、そういう状況になったときに、自分の家庭だけで何とかしようとするのではなく、プロフェッショナルに任せたほうが楽だという話がありました。この不登校の問題についても、映画を見ながら私自身そう感じたところですよ。

「自分の教育方針でいく」と強く思っているけど、どうもうまくいかず子どもがひきこもりになってしまう。そうすると、親としては「そんな姿を人に見せたくない」という気持ちが強くなって、妙に張り合ってしまうと、親子関係がギスギスしてしまう、ということもあるのではないかと思います。そういうときには、スクールカウンセラーのような相談先があれば、ぜひそこに相談に行っていきたいと思えます。

今、認知症の方を家族だけで支えるというのは、正直なところ、もう難しい時代ですよ。気持ちや心意気はあっても現実的には無理なことも多い。ですから、そういった部分はプレッシャーを一人で抱え込まずプロに任せる、親子で向き合うときは自然な形で向き合うということが大事なのだ。この間の映画から学びました。

明日からすぐに解決というわけにもいかない問題ではありますが、今できることをやりながら、私たちとしても少しずつ課題整理をしていきたいと思っています。

中学生以上に限らず、何かあったときの相談窓口のような役割を担ってもらえないかという思いがあります。そのあたりも含めて、私は国立青少年自然の家を活用していきたいと考えています。中学生以上でもいいから、ぜひそういった中学生の相談口になってくれないかと。

不登校については、いろいろ課題はありますが、その中の一つとして、家庭も巻き込んだ形で何か方策が取れないか、研究していくということでもよろしいでしょうか。

アフタースクールについては以上です。

次第に沿っていくと「その他」の項目になりますけれども、学校教育全般、あるいは町長に対するご意見でも結構です。何かありましたら、どう

	<p>ぞおっしゃってください。</p>
<p>東野委員</p>	<p>今、生成 AI については、いろいろと本当にプラスの面もあって、学校現場でも実際に前向きな形で活用されていると思います。</p> <p>ただ、今日の西日本新聞にも出ていましたけれども、画像をあっという間に編集して不適切な内容に加工されてしまう、そういう事例もあるようです。中学生くらいの子どもたちがそれを送り合ったりグループの中で共有したりして外に広がってしまう可能性もありますし、教員の不祥事なども含めて、そういった問題への対策が今後さらに学校現場に求められていくのかなと感じています。</p> <p>こうした事案自体は、メールが使われ始めた平成の頃からすでに起きていて学校としてもこれまで対応してきました。保護者向けの研修会を行ったり、子どもたちに対しても専門の方を招いて学習会を開いたり、いろいろ取り組んできているところです。</p> <p>ただ、それが生成 AI の登場によってさらに拍車がかかって、想像以上の事態になってしまうのではないかという不安を最近のニュースなどを見ていて感じています。</p> <p>今日の議題とは少しずれるかもしれませんが、今後はこうした点も教育課題としてかなり大きな位置を占めてくるのではないかと少し危惧しているところです。</p>
<p>田頭町長</p>	<p>この問題意識は本当に共有したいと思います。</p> <p>問題意識としては解決策がなかなか見いだせないのですが、ただ、チャット GPT である程度の答えを得られるし、何か問題があればアドバイスを得られるという点があります。</p> <p>ただ、やはり子どもの思考力が低下するのではないかと私は思います。考えなくても物事ができてしまいますから。</p> <p>例えば、論文でも「これを書けばいい」ということであれば、あまり勉強しなくてもよいのではないかという意識になりかねません。それを編集できる人が優秀な人材と思われるようなことでは、人類としての進歩がないのではないかと考えます。思考力が低下すれば、やはり進化も止まってしまいますよね。</p> <p>そういう意味では、生成 AI の活用にはかなり高度な制約やブレーキ、何らかの歯止めが必要になってくるでしょう。</p> <p>実際、チャット GPT が私より正確に答えるので、うちの孫が「わざわざじいちゃんに聞かなくてもいい」と言うこともあります。確かに正確ではありますが、逆に考える力が育ちにくくなる懸念もあります。</p>

	<p>また、YouTube などを見ると、漢字の字幕が間違っていることがかなり多いです。子どもたちがそれをずっと見ていると「これでいいんだ」と思ってしまう可能性があります。</p> <p>まだまだ問題はありますが、こうした技術が人間の脳にまで浸透してくると、少し危険ではないかと感じます。</p> <p>外国ではすでにこうした技術を規制する動きもあります。日本でも、将来的にはこうした問題に対応するために高度な技術研究が必要になると思いますが、私たちが直接できることはなかなか難しいのが現実です。</p> <p>それでも、スマホなどの活用環境を見ていると、技術の進化は非常に速いなど実感します。</p>
宮崎教育長	指導主事が技術の教員ですので、何か意見があれば。
月足指導主事	<p>次年度から新しいタブレットが導入されますが、タブレットを活用した学習や AI の活用について、町全体で足並みを揃える必要があると思います。書籍などを読むと、AI 活用については二本立てで考える必要があると感じます。</p> <p>1 つは、創作活動に関して、AI に任せすぎると子どもの思考力に影響が出るため、適切なブレーキをかけることが必要です。</p> <p>もう 1 つは、新しい技術を巧みに使いこなす教育も必要だということです。そのため、教科間での整理をしっかり行い、教育委員会が主導しながら町全体で足並みを揃えて運用していくことが重要だと思います。</p>
田頭町長	<p>そうですね。功罪ありですもんね。</p> <p>原子力と同じで、AI も発電所のように便利に使える一方で、爆弾のように危険にもなり得ます。しかし、人間がこれを作り出した以上、その処理や運用は人間の英知で行わなければならないですよ。</p> <p>こうした問題意識は、町村会でも共有し、口だけではなく大きな組織のうねりとして取り組む必要があると思います。どこでも、この問題に対する意識はあるはずです。「便利だけど危険」という認識ですね。</p> <p>AI を含む新しい技術の活用については、工夫を凝らしながら、教育長レベルでも取り組むべきだと思います。私も市町村首長レベルでこの問題を国に提起していきたいと考えています。</p>
月足指導主事	<p>それから、生成 AI とは少し離れますが、昨年度まで中学校に勤務しており、子どもたちのスマートフォンの活用について調査をする機会がありました。</p> <p>他市町村と比較すると、現在の筑前町の子どもたちは家庭で携帯電話を使用する時間がかなり長い状況です。この点については、10 年ほど前</p>

	から小中学校の教員の間では周知の事実となっています。
田頭町長	それは家庭学習の短さと直結するところですよ。
宮崎教育長	そうですね。
田頭町長	<p>制約をしなければ子どもたちは何かあればスマホを見ているような状況ですよ。勉強しなさいと言えはするけれども、やはり本当に大事な時間をきちんと確保しなければならないのだと思います。</p> <p>やはり本町では、家庭学習の時間が短かったのでしょうか。だからアフタースクールに通うことでその時間はスマホを使えないというところで、一つ効用があるかもしれないですね。</p> <p>今の子どもたちはみんなスマホを持っているのでしょうか。</p>
宮崎教育長	ほとんど持っていると思います。
月足指導主事	個人で持っています。
東野委員	小学生でも持っていることが多いですね。
田頭町長	<p>外で遊んで来いと言っても、外でスマホとかゲームばかりする。だから、塾以外にもプールに行くなど、そういう時間があればスマホから離れられるでしょうけど。やはり教育上スマホばかりということはよろしくないでしょう。</p> <p>難しい言葉を知っていたりしますけど。</p>
東野委員	<p>言葉を知っていても、体験に基づいていないですからね。体験することで情緒的なところが発達するし思考も発達するし。</p> <p>ある保育所の学習発表会で園長先生がしきりに言っていたのが、「当園では“体験”を重視しています。実際に体験することが大切です。家庭でもたくさんの体験をさせてあげてください。」ということでした。その言葉に私はとても共感していました。やはり、3、4歳頃であっても、体験が少なくなっているということを危惧されているのだらうと思います。</p>
田頭町長	<p>例えば大学受験において、そうした取組のために科目を一つ設けるといった方法も考えられるのではないかと思います。例えば、私の考えですが、大学の科目としてボランティアや社会貢献活動を必須とする仕組みを設けてもよいのではないのでしょうか。</p> <p>また、企業の採用試験においても、そうした社会貢献の経験があるかどうかを正直に記載させるようにし、そのような社会の仕組みにしていけば、人はどうしても何らかのメリットがなければ取り組まない傾向があるため一定の効果があるのではないかと考えます。</p> <p>受験にも役立ち、さらに、その大学に通っている学生はそれだけの人格を備えた人材であるという評価につながれば、学校としてのブランド価値</p>

	<p>も高まるのではないかと思います。その点では、ハーバード大学などが一つの例ではないかとも感じています。</p> <p>そのように、日本においても、大学を卒業するまでに一定の社会貢献活動やボランティア活動を行ったことを証明する仕組みを設けることが考えられます。内容としては、災害ボランティアでも農業支援などでもよいと思います。特に農業分野を含めていただければ、農業者にとっても助けになりますし、学生にとっても、食の大切さを理解する機会になると考えます。防災や災害ボランティアなども含め、制度として組み込むことができないかと思っています。</p> <p>現在、中学生でも職場体験として数日間来っていますが、あれはまさに体験だと思います。きちんとカリキュラムに位置付け、一定数以上の単位取得がなければ卒業できない、あるいは、それが将来の就職に影響するという形になれば企業にとってもメリットがあるのではないかと思います。</p> <p>学校の教職員についても、やはり実体験をした方が強いですよ。体験した分野については自信を持って物事を語るすることができます。</p> <p>久留米からお越しの委員もいらっしゃいますが、他の地域の子どもたちとも比較して、本町の子どもたちの特徴について、良い面と課題の両方があれば、ぜひご紹介いただきたいと思っています。</p>
小能見委員	<p>一番大きいのは、やはり環境だと思います。</p> <p>自分の知らない世界は、なかなか分からないものですので、そうした世界を子どもたちに見せてあげたいと私はよく思っています。</p> <p>保護者の方々も、ご自身が知らない世界はたくさんあると思います。もしその場にとどまったままであれば、子どもたちも保護者と同じところで止まってしまい、それ以上世界が広がらないのではないかと感じます。そのため、子どもたちにはできるだけ多くの異なる世界を見せてあげたいと思っています。仕事についても同様で、世の中にはさまざまな仕事があるということを子どもたちに知ってもらいたいと考えています。</p> <p>また、英語教育については早い方がよい、早めに始めるに越したことはないと感じています。</p> <p>先ほど、アフタースクールの中に英検対策の講座があるというお話を伺いました。よく聞く話では、受験機会が限られている、市町村によっては一部のみ無料で受けられるなど、毎回無料で受験できるわけではないところが多いようです。その点を考えると、本町は条件が非常に整っており恵まれていると正直感じました。</p>

	<p>英会話コースと英検対策コースを見たとき、どちらも受けさせたいと思う保護者は多いと思いますし、どちらか一方だけというのは少し残念に感じる面もあると思います。</p> <p>子どもたちには将来に繋げてほしいと強く思います。</p> <p>先生方も非常に努力されており、子どもたちのために尽力してくださっていますので、保護者も同じように子どものために頑張らなければならないと感じています。</p>
田頭町長	<p>確かに、新しく都市部から転入してこられた方々は、教育に対する熱心がやや高いように感じます。</p> <p>具体的には、筑紫野市では新しい団地ができており、そこに住んでいる新しい住民が通う学校は、学力が高いというか、教育に対して非常に熱心だという印象があります。</p> <p>その点を踏まえると、本町は全体としては中間的な位置にあるのではないかと思います。町外者が増えてきたこともあり、そうした教育や支援に関する意見が以前より強くなってきているのは間違いないと感じています。</p>
小能見委員	<p>やはり子どもが親を超えて欲しいという希望を持っていると思う。</p> <p>ほとんどの親がそう思うのではないのでしょうか。</p>
田頭町長	<p>そうですね。親心として思いますよね。</p> <p>本町周辺は、都市部と比べるとややひとつステージが遅れていると感じます。都市部では単に塾に通うだけでなく、より質の高い塾を選ぶといった段階にすでに入っていますが、本町では、ようやく塾に通い始めようかという段階の子どもたちも多く、そうしたスピード感や状況の違いはあると感じています。</p> <p>本町は町で、隣は市であったため、私は常に筑紫野市と朝倉市を比較して見てきました。私が最初に町長になったときに驚いたのは、光ファイバーが整備されていなかったことです。ブロードバンド自体はありましたが光回線がなかったのです。それは仕方がないと片付けるのではなく、非常に問題だと感じましたので、町民税を投入してでも整備を進めようと考えました。情報の遅れは、そのまま意識の遅れにつながると思います。</p> <p>それと指導主事。筑紫野市や朝倉市など市には指導主事がいるが、本町にはいない。なぜかという話になった時に、国からの交付税措置がないなどと言われ簡単に状況が変わるわけではないので、それなら自前でやらせてもらおうと、取り組めるところは少しずつでも進めてきました。</p>

	<p>また、アフタースクールについては、久留米市長が筑前町から学びたいと言って私のところに尋ねられました。話をしていたら、小規模自治体だからこそ、柔軟に取り組める部分もあると考えました。</p> <p>今回の米の配布に関しても、久留米市や福岡市のような大都市ではたとえ市長が指示しても簡単には実現できない内容だと思います。規模が大きい自治体ほど動きが取れない。その点、小規模な自治体の方が機動的に動けると実感しました。</p> <p>それでは、AIの問題などについては、ここだけの課題ではなく、意識を持ちながら、さまざまな場で発信していくべきだと思います。</p> <p>国としても検討は進めていると思いますが、地方においても非常に深刻な課題であるということをしっかりと伝えていく必要があると感じています。</p> <p>新たに教育委員になられてなにかご意見はありますでしょうか。</p>
<p>栗野委員</p>	<p>話は戻りますが、保護者の立場として英検の費用を全額負担していただいていることは本当にありがたいと感じています。</p> <p>我が家でも昨年度まで子どもが中学3年生でしたが、無料で受講できるとなると受験の機会が増え、受けられるだけ受けようという気持ちになります。実際に、自分が中学生の頃に取得していた級よりも一段階上の級に挑戦することができており、その分、学習の機会が広がっていると感じました。このように、継続して受講できる環境が整っていることは非常に素晴らしいことだと思います。</p> <p>また、アフタースクールの費用についても、現在、長男が高校生で大学受験のために別の塾に通っていますが、その費用とは大きな差があります。一般的な塾では数十万円単位の費用がかかることもあります。その点、月額2,000円程度で利用できるアフタースクールは、家庭にとって非常に負担が少なく本当にありがたい制度だと感じています。</p>
<p>田頭町長</p>	<p>本町は小規模な町であり、国からの補助金をもらわないと町税だけでは運営が難しい状況です。また、現在はふるさと納税制度があり、寄付の半額程度を自由に活用できるため、そうした財源をアフタースクールの運営費に充当しています。</p> <p>県から200万円ほど補助金が出ているが、県が関わるということはその事業が県に認められた事業であることを意味します。町が小規模な事</p>

	<p>業でも 10 万円を出せば町が認めた事業として箔がつくわけです。その意味で、県の補助金の規模の趣旨は入試を念頭に置いたものではないと思われませんが、本町では入試を意識した取組にかなり力を入れており、200 万円ではない規模の町費を投入して支援を行っています。</p>
<p>東野委員</p>	<p>他地区の状況を本町の状況と比較して考えたとき、私自身は朝倉市、東峰村、筑前町、太宰府市、春日市で勤務した経験があります。</p> <p>その中で感じたのは、子どもの性質自体は大きく変わらないということです。子どもたちは熱中して取り組み、努力し、友達とトラブルがあってもすぐに仲直りし、また一緒に活動するということを繰り返しています。</p> <p>しかし、環境は明らかに変わってきています。</p> <p>平成初期にはテレビゲームが家庭に導入され、当時は家でしか遊べなかったものが徐々にコンパクトになり、現在では公園に持ち込んで友達と通信ゲームをする光景も見られます。家庭内では遊べず注意されることが多いため、外でゲームをするようになっていますが、それでも子どもたちはボール1つあれば自然と蹴って遊びます。</p> <p>やはり、自然に触れる体験を親も一緒に参加する活動は重要であり、子ども会などの地域活動にも親子で一緒に関わってほしいと考えます。しかし、参加しない家庭が増えているのも現状です。</p> <p>一方で、筑前町の良さとして感じるのは、人口が約 3 万人だと行政や地域活動がきめ細かくできる規模であることです。</p> <p>こども課に関わる中で、幼少期の子どもたちや親の名前、小学校・中学校の情報まで把握できるのは、この規模だからこそ可能だと感じます。規模が大きすぎると把握しきれませんし、逆に小さすぎると関わりすぎることもあります。このような環境の中で子ども自身も努力する力を養うことができ、筑前町は非常に良い環境だと感じています。行政の方々の取り組みもあり、地域としても支えられている印象です。</p>
<p>田頭町長</p>	<p>これは先人や先輩方が努力して築いてきたものであり、古代ギリシャのアテネやスパルタなども人口 1 万～3 万人程度の規模でした。この規模では民主的な政策が行いやすく、トップと住民の関係が見えやすく、ボトムアップも可能です。こうした「顔が見える関係」が人の営みや共同体の安定につながります。</p> <p>本町も偶然人口が約 3 万人であり、人口が 10 万人になることが必ずしも良いとは思っていません。また、4.5 万人を望むわけでもありません。ただ、減少することは大きな問題です。</p> <p>人口を維持するためには、施策を考え、行動していく必要があります。</p>

	<p>人口は地域の資本であり、文明や文化の衰退は人口の減少と密接に関わっています。</p> <p>江戸時代は人口が少なくても農業や林業が均等に分布しており、教育の面では藩校があり、学びたい人には教育の機会が与えられ、レベルの高い人材は江戸などに向かって学ぶ仕組みがありました。こうした地方分散型の教育や産業の仕組みが地域を支えてきたと考えられます。そのため、教育と産業の両立が重要であり、教育がしっかりしていれば地域は発展すると思います。特に地元高校の役割は大きく、生徒がすべて福岡などの都市部に流出してしまうことがないよう、地域で学べる環境を整えることが大切です。</p> <p>地元企業や行政も協力し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えていくことが重要だと思います。</p> <p>それと、1点お伺いしたいのは、学童保育のあり方についてです。</p> <p>現在、国からいろいろな方針が示されていますが、それは子ども自身にとって直接関係のある話ではないと感じています。子育てに関わる立場からすると、学童保育は次のような観点で考えれば良いのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって体験的な学びの場としての機能を持たせるべきか ・小学校の予備軍として、1年生になったときにスムーズに学習できるよう補助する場にするべきか ・学校でできなかったことを補完する役割を持たせるべきか <p>本町でも、学童保育の運営業者を変更し新たな方針で実施することになっています。現場の状況を確認し、保護者の意見も聞きながら改善状況を評価していきたいと考えています。</p> <p>ただ、現状では教育委員会は学童保育に関与していないと聞いています。行政上はそうなっているかもしれませんが、子どものことを考えれば、教育委員会も一定の関与や考慮が必要ではないかと思います。教育委員は学校教育だけでなく、子ども全体の育ちを見据えた視点も持つべきだと考えています。</p>
東野委員	<p>現在、中牟田小学校に2階建ての学童施設を建設するなど、施設の増設が進んでいます。三輪も第1学童、第2学童も含め、働くお母さんやパートの方などのニーズに対応する形で、施設やスタッフが増えている状況です。</p> <p>しかし、子どもたちの安全・安心を守る観点では、いくつか懸念があります。</p>

	<p>以前、現場を見に行った際には、片方で宿題をしている子どもと、片方で走り回っている子どもが混在しており、この状況で安全が確保できるのか心配したことがあります。学童の先生方は、「ここは塾ではなく、学校と学童の中間の場所として、ある程度自由に過ごさせている」という考えを持たれていました。それは理解できる部分もありますが、やはり安全面の管理が十分かどうかは重要な課題です。</p> <p>私は、学童保育でも前半の時間などはある程度カリキュラムに沿った活動を取り入れ、子どもたちが安全に学びながら過ごせる工夫が必要ではないかと考えています。今後、業者がどのような方針で運営するのか、その考え方を確認することが重要だと思います。</p>
田頭町長	<p>学童保育について、今までと違った特色を出したいという思いはあるようですが、現実的には容易ではないと考えています。実際の雇用は、これまでの先生方の再雇用が多いため、大きく変わることは難しいのではないかと思います。実際に運営の様子を見てみたいと考えています。</p> <p>国の縦割り行政も問題であり、厚生労働省や文部科学省で分けられていることは、子育て全体の観点からすると適切ではないと感じていて、学童保育にはさまざまな形態がありますが、昼間は学校の教室を使用し、同じ敷地内に子どもたちがいるにもかかわらず、行政間で連携が取れていないのはおかしいと考えます。</p> <p>糟屋地区の施設は非常に立派で、教室並みの設備が整っています。これは、農業分野などに支出する必要がある地域では学童保育に十分な予算を投入できるためかもしれません。基山町や広川市などでも多くの立派な学童施設が整備されています。</p> <p>本町では、外部委託の学童保育に対する予算が不足していた時期もありましたが、今後は学童保育の質向上に向けた取組も重要であると考えています。</p>
宮崎教育長	<p>学童保育は何をしなければならないとかいう基準があるわけではないのですか。逆に何もなくてもいいということですか。</p>
田頭町長	<p>そうだと思います。極端な話、英語の授業をしてもいいと思いますが、子守的な側面があるためできるだけ目の届く範囲で管理的な業務になっているのかなと思います。ただ、もったいないと感じることもあります。</p>
東野委員	<p>環境が整えば外遊びをさせたりしてくださっているようです。</p>
栗野委員	<p>うちの子は役場の上の第2学童ですけど、土曜日などは1日缶詰状態らしいので、宿題する子もいればトランプする子もいて、ただ、横になったらダメと言われているようです。</p>

田頭町長	<p>めくば一や図書館は良い施設だと思います。あそこで勉強したい子どももいるでしょう。一方で、制限もあって、事故のリスクもあるため、その点は課題となります。</p> <p>三輪小学校はバスも通っており、子どもたちにとって絶好の遊び場だと思います。勉強したい子はしっかり勉強することもできます。</p> <p>学童保育については、もっと生き生きとした活動ができれば良いと考えています。本町ならではの特色を活かした取り組みがあれば、より魅力的な学童保育にできると思います。また、ほとんどの学童保育は学校の敷地内に設置されているので、学校施設をフルに活用し、教室だけでなく、体育館や運動場なども利用できれば、交通安全の面でも安心して子どもたちが過ごせると考えています。</p>
小能見委員	<p>都会は放課後迎えに来て、別の学童保育に連れていくようなことが結構ありますよね。</p>
田頭町長	<p>やっぱり、施設によって学童保育の保育方針が違うのでしょうか。ここはこういう取り組みをしていますとか、保育所はそういう感じですよ。</p> <p>町内でいうとみなみ幼稚園は、非常に子どもの希望者が多いです。</p> <p>その理由として、人から聞いた話では、食の教育をしっかり行っていることが挙げられます。子どもたちはここで食の勉強をさせてもらえるため、希望者が多いのだと思います。そのように、自由に対応してもらえることも特徴です。こうした点が、私学の良さでしょうね。</p>
宮崎教育長	<p>学童にあまりにも魅力があると沢山来ますよね。</p>
東野委員	<p>ただ、入所には親の就労証明など要件がありますから。</p>
田頭町長	<p>ぜひ私達も一緒になって学童保育に関しても注視していきましょう。教育の分野とは少し違うのかも知れませんが、子育ての一環だと思っていけないのかなと私は思っています。</p> <p>それともう一つ、三並小学校の特認校についての評判など何か聞かれたことはありますか。</p>
小能見委員	<p>直接保護者と話す機会があり、本来は中牟田小学校だが、兄弟で別々の学校に通わせているという保護者とお会いしました。その方は、すごくよかった、相談に乗ってもらっていると話されていました。</p>
田頭町長	<p>様々な子どもたちが来やすいという点も、当初心配していました。その結果、支援学校のようになってしまう、本来の学校の姿ではなくなるのではないかと感じたからです。もしそのような問題が生じるのであれば、三並小学校は特認校としての本来の趣旨から外れてしまうのではないかと</p>

	<p>思います。</p> <p>本来は、「その学校に行きたいから行く」という理由であるべきで、「少人数で先生に手厚く見てもらえるから行く」という理由が強くなりすぎると、学校全体の雰囲気の影響が出て、逆にそこから離れたがる生徒が出てくる可能性もあると感じています。</p> <p>その点については、制約を設けるほどではないにしても、一定の課題ではないかと思います。本来であれば、役割分担をしながら、人口に応じて分散する形が望ましいのだろうと考えています。</p> <p>一方で、私の自宅の隣の家が長く空き家状態であったところに、新しく転入された方がいます。その方に話を聞くと、障がいがあるとかではなく、三並小学校に通わせなかったからこの地域に来たということでした。田舎暮らしが好きで、この環境を選ばれた方です。このように、田舎暮らしを楽しみながら、三並小学校の教育環境を求めて転入してくる家庭も増えてきており、知的水準の高い方々にもその傾向が見られます。距離が遠いことも承知の上で、それも含めて魅力だと感じているそうです。</p> <p>個人差はありますが、こうした人たちが増えること自体は、それはそれで良いことではないかと思っています。</p> <p>もう一つ、私が驚いた点として、プールの指導があります。</p> <p>中学校の水泳の授業では泳げない子どももいますが、三並小学校出身の子どもたちは全員が泳げていました。</p> <p>他の学校では泳げない子どもがいる中で、三並小学校ではどのような子であっても水泳ができるようになるまでしっかりと指導されているのだと思います。</p> <p>このような点は、三並小学校ならではの教育効果であり、小規模校であるからこそ一人ひとりに丁寧な指導が行き届いている結果ではないかと感じました。小さな学校だからこそ、塾のようにきめ細かな指導ができているのではないかと思います。</p>
宮崎教育長	三並小学校は以前から水泳には力を入れていましたからね。
東野委員	<p>本当に全然違いますよね。</p> <p>先ほど町長が述べられたように、特認校制度は、通う子どもにとっても、受け入れる三並地区の子どもにとっても、さらに地域の方々にとっても、いずれにとってもプラスになるものであってほしいと考えています。</p> <p>そのため、「不登校だから」「少人数の学校だから」という理由だけで選</p>

	<p>扱われるのではなく、少人数であることの良さを活かした教育内容に魅力を感じて選ばれる制度であるべきだと思います。</p> <p>単に少人数であることだけを理由に特認校を選ぶのは、本来の趣旨からすると本末転倒ではないかと感じています。</p>
田頭町長	<p>ただし、希望があった場合に、その理由だけで受け入れを断ることは現実的には難しい面もあると思います。その点の難しさは理解していますが、課題であることは間違いありません。課題であるにもかかわらず「要望が強いから」という理由だけで放置してよいのかという疑問もあります。</p> <p>保護者の立場や地域の立場に配慮することは大切ですが、小規模であるがゆえに特定の役割ばかりを担わされると、人口の少ない地域は、ますます不利になってしまいますからね。これは行政全体にも言えることですが、効率や効果を重視すると、どうしても人口の多い地域が優先され、人口の少ない地域には負担の大きい施設が回される傾向があります。</p> <p>例えば、これまでは、ゴミ処理施設は山間部に、文化施設は中心部にというような配置が行われてきました。しかし、本来は、ゴミ処理施設も文化施設も同じ地域にバランスよく配置してよいはずです。</p> <p>そうした視点が欠けると地域間の格差が広がります。</p> <p>学校教育においても同様で「三並小学校は児童数が少ないから手厚い配置は不要」とするのではなく、規模に関わらず同じように扱うべきだと考えています。そうしなければ、過疎化はさらに進んでしまいます。</p> <p>私が「みなみの里」をあな場所に整備した理由の一つも、そうした考え方に基づいています。</p> <p>商業的に見れば国道沿いが正解だという意見はもっともですが、その地域がこのままではさらに衰退するため、道路整備と拠点施設の整備によって地域の魅力を高め、人口増加につなげることを目的としました。</p> <p>ただし、当初は反対意見も多かったです。それでも、道路整備や公共投資は、「まずは人口の少ない地域から行うべきだ」という考えで進めてきました。</p> <p>人口の多い地域は声が大きく、議員の数も多いため要望が通りやすいのが現実です。それでも、行政には中立性が求められますから、人口の多寡に左右されず、地域全体を俯瞰した視点を持つことが重要だと職員に対して言っているつもりです。</p> <p>過去には、「南部地域への工場誘致は誰でもできる。本当にやるべきは人口減少が進む北部地域への対策ではないか」という指摘を受けたこと</p>

	<p>もあります。行政の役割は、まさにそうした点にあると思います。人口の少ない地域に対して、「ここには必要ない」「ここは後回しでよい」と判断することが、結果的に衰退に拍車をかけてしまいます。</p> <p>均衡ある発展を目指すためには、コンパクトシティを一極集中で考えるのではなく、各地域に小さな拠点を分散して整備する必要があります。そうでなければ、東京一極集中の発想から抜け出せません。</p> <p>教育についても同じで、町の中にレベルの高い学校が一つ生まれれば自然と人は集まってきます。今後、日本全体で社会構造が変化し、外国人の増加も進む中で、教育の在り方は、ますます重要になると考えています。</p> <p>教育委員の皆さん、何かコメントがあればどうぞ。</p>
東野委員	<p>このように、教育を中心に町長と直接お話しできる機会は年に一度ではありますが、このような場を設けていただけることは私たちにとって新たな視点を得る貴重な機会になっています。</p> <p>現場にいと、どうしても実務的なことや具体的な課題に目が向きがちですが、町長部局では費用対効果という視点から施策を捉えておられることを改めて感じました。</p> <p>これは、多い・少ない、良い・悪いという単純な評価ではなく、「この活動にどれだけの費用をかけ、その結果どのような効果があったのか」を冷静に見ておられるという意味だと受け止めています。</p> <p>例えば、アフタースクール事業を実施することで、子どもたちにどのような成長が見られたのか、そこにどれだけの予算を投入しどの程度の有効性があったのか、そうした点をきちんと測りながら施策を進めているのだと感じました。</p> <p>教育委員会がさまざまな施策を行っている背景には、町民の皆さんの税金が使われているという事実があります。そのことを改めて認識し、公立学校として教育を充実させていく責任と使命を強く感じました。</p> <p>そして、その一環として教育委員の役割があるのだと改めて実感したところです。</p>
田頭町長	<p>行政職員には常に費用対効果と財源を意識することが求められます。使うだけであれば誰でもできますが、「その財源をどこから持ってくるのか」という視点が重要だと、私は口うるさく伝えています。</p> <p>人口が増えることは、税収が一定程度増えるというメリットがあります。また、自治体としては補助金を獲得してくることも「稼ぐ力」の一つです。</p>

そのため、常に補助金の活用を考え、財源の確保に努めています。

例えば掩体壕の整備には約 2 億円を要しましたが、これを全て町民税で賄うことには批判もありました。掩体壕は町だけの財産ではなく国家的な財産であるため、国の補助を受けるべきだと考えましたが適当な補助金がなく、結果として約 1 億円を国から確保しました。さらに、クラウドファンディングやふるさと納税も活用し、一般財源は極力使わず、特別財源で対応する方針を取りました。

一般的な福祉や教育には当然財源が必要ですが、アフタースクールのような特色ある事業については、できる限り特別な財源を用意するという考え方で進めています。

タブレット導入一つでも、補助金が使えないかを必ず検討します。結果として補助金が見つからない場合でも、別の事業との組み合わせなどを含め、常に「入るお金」と「出るお金」を考えています。

教育は目に見えにくい分野で、将来への投資です。

道路整備を否定するわけではありませんが、場合によっては道路一本分の予算を教育に回すという判断も必要だと考えています。道路についても財源確保に努めていますが、なかなか簡単ではありません。

それでも「財源がないから何もできない」という姿勢ではいけないと思っています。行政には、声の大きい地域だけでなく、声が上がらない地域にも目を向ける責任があります。区長を通じて何度も要望が出る地域もあれば、全く要望が出ない地域もあります。

だからこそ、職員には「言われなくても見に行く」姿勢を持つよう伝えていきます。

私は、教育について行政職員にも理解を深めてほしいと考えていますし、同時に、教育関係の皆さんにも行政の立場を少し理解していただきたいと思っています。

私は選挙で選ばれた立場として責任があり、選挙期間中に住民の声を直接聞く中で、「教育に力を入れる」と話したとき、特に保護者の反応が大きく変わることを実感しました。

アフタースクール事業・子ども議会もこの会議から生まれたものです。現場の職員や教育委員会が具体化してくれた結果、現在の形があります。

また、他自治体を視察すると、良い取組をしている自治体は、他の分野でも工夫を重ねていることが多いと感じます。

本町では、紙おむつリサイクル事業などもその一例で、一つの取組が

	<p>次の評価や視察につながっています。</p> <p>アフタースクール事業については、一般住民からの評価も高く、英語教育についても、孫が英語を好きになったという声を耳にします。</p> <p>以前は比較的ゆったりした学習風土でしたが、近年は学習意欲も高まってきていると感じています。</p> <p>一方で、農業も決しておろそかになっておらず、筑前町は福岡県内でも元気な農業の町です。元気な町の秘訣は「半歩先」を行くことが、周囲の注目を集め、結果として評価につながると考えています。行き過ぎると周りがついてこない、だから半歩先が良いと思っています。</p> <p>筑前町は教育に対する理解が深い町だと思っています。</p> <p>学校給食の自校方式を選択したことも、子どもたちを第一に考えた結果であり、費用はかかりますが、誇れる判断だったと感じています。</p> <p>以上のような考えのもと、教育をはじめとする施策に取り組んでいるところです。</p> <p>ところで、給食費について国が5,200円出すと言っていますが本町は足りるのでしょうか。</p>
宮崎教育課長	<p>おそらく少し足りないかなと思います。</p> <p>来年度は5,300円が目途だと思っているため、少し足りません。</p>
田頭町長	<p>その5,300円の中に地産地消のレシビは含まれているのでしょうか。</p>
宮崎教育課長	<p>基本的には地産地消をできるだけ取り入れて作ってもらうようになっています。</p>
田頭町長	<p>それならば、5,200円で示したら、その中で地産地消の献立を組んでもらえるのでしょうか。</p>
宮崎教育課長	<p>基本的には同じメニューだとしても物価高騰によって、小学校で5,300円くらいになるのではと考えています。</p>
田頭町長	<p>中学生はもう少し食べるから金額もあるわけですね。そこは国が出さなかったわけでしょう。ただ、どこの自治体でも言っているが、隣自治体がして、うちがしないわけにはいかないため、やっていくと思いますが、小学校の分が出てきたということは、中学校の半額も当然普及してくるでしょうね。</p> <p>ただ、保護者からのいくらか徴収してもいいという見解はでているでしょう。小中学校ともに、現在半額ですから、小学校はほとんど手出しがな</p>

	<p>くなるわけですね。</p> <p>中学校の給食費の問題は議論すべき課題ですね。</p> <p>ただ、本来給食費は国が負担すべき費用だと私は思っています。</p> <p>それでは他にご意見などありましたらどうぞ。</p> <p>なければ、私の司会はここまでとさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
石井	<p>それでは、以上を持ちまして、令和7年度総合教育会議を終了いたします。</p>